

# 2019年度 博士後期課程研究指導一覧

## ◆博士後期課程 経済学専攻

コース名	研究領域名	専修名	指導教員名	指導言語 (日本語:J／英語:E)		研究指導 コード	
経済学 コース	経済理論	理論経済学	荒木 一法 准教授	J	E	1Y3	
			※ 上田 晃三 教授	J	E	1Yc	
			荻沼 隆 教授	J	E	1Y2	
			△ 笠松 学 教授	J	E	1Y5	
			金子 守 教授	J	E	1Yb	
			河村 耕平 教授	J	E	1Ye	
			Associate Prof. KVASOV, Dmitriy	—	E	1Yf	
			※ 笹倉 和幸 教授	J	E	1Y6	
			田中 久稔 准教授	J	E	1Y4	
			△ 永田 良 教授 (2020.3 定年退職予定)	J	E	1Y1	
		数理経済学	※ 船木由喜彦 教授	J	E	1Y8	
		実験経済学	※ Associate Prof. VESZTEG, Robert Ferenc	—	E	1Yd	
		経済学説史	※(未定)	J	E	1Ya	
		統計・ 計量分析	計量経済学	近藤 康之 教授	J	E	2Y2
			星野 匡郎 准教授	J	E	2Yb	
			統計学	△ 西郷 浩 教授	J	E	2Y3
			経済統計	△ 野口 和也 教授 (2020.3 定年退職予定)	J	—	2Y4
			数量経済政策	上田 貴子 教授	J	E	2Y6
		応用マクロ計量経済学	産業エコロジー	中村慎一郎 教授	J	E	2Y1
			金融工学	玉置健一郎 准教授	J	E	2Y7
			ファイナンス	※ 山本 竜市 教授	J	E	2Y8
			片山 宗親 准教授	J	E	2Ya	
			Prof. BAAK, Saan Joon	J	E	2Y9	
		経済史	西洋経済史	※ (未定)			
			日本経済史	川口 浩 教授	J	—	3Y3
			国際日本経済史	△ 鎮目 雅人 教授	J	E	3Y4
			アジア経済史	本野 英一 教授	J	E	3Y5
		経済政策	経済政策理論	※ (未定)			
			産業組織論	※ (未定)			
			農業経済学	下川 哲 准教授	J	E	4Ya
			金融論	小倉 義明 教授	J	E	4Y6
				戸村 肇 准教授	J	E	4Y9
			政治経済学方法論	清水 和巳 教授	J	E	4Y7
			応用マクロ・ファイナンス	小枝 淳子 准教授	J	E	4Y8
		公共政策	社会政策	白木 三秀 教授	J	E	5Y1
			社会保障	※ (未定)			
			人事経済学	大湾 秀雄 教授	J	E	5Yb
			労働経済学	村上由紀子 教授	J	E	5Y3
			公共経済学	須賀 晃一 教授	J	E	5Y4
				安達 剛 准教授	J	E	5Yc
			財政学	※ (未定)			
			環境経済学	有村 俊秀 教授	J	E	5Y7
			公共政策	※ 福島 淑彦 教授	J	E	5Y8
			医療経済学	野口 晴子 教授	J	E	5Y9
			政治経済学	浅古 泰史 准教授	J	E	5Ya

国際経済	国際経済論	金子 昭彦 教授	J	E	6Y6
		内藤 巧 教授	J	E	6Y3
		瀬野 正樹 准教授	J	E	6Y8
	開発経済論	深川由起子 教授	J	E	6Y4
	アジア経済論	※ 戸堂 康之 教授	J	E	6Y7
	国際政治経済学(経済)	小西 秀樹 教授	J	E	6Y5
	空間経済学	齊藤有希子 准教授	J	E	6Y9
国際政治経済学 コース	国際経済論	金子 昭彦 教授	J	E	6E6
		内藤 巧 教授	J	E	6E3
		瀬野 正樹 准教授	J	E	6E8
	開発経済論	深川由起子 教授	J	E	6E4
	アジア経済論	※ 戸堂 康之 教授	J	E	6E7
	国際政治経済学(経済)	小西 秀樹 教授	J	E	6E5
	空間経済学	齊藤有希子 准教授	J	E	6E9
	数量経済政策	上田 貴子 教授	J	E	2E6
	農業経済学	下川 哲 准教授	J	E	4Ea
	政治経済学方法論	清水 和巳 教授	J	E	4E7
	公共経済学	須賀 晃一 教授	J	E	5E4
		安達 剛 准教授	J	E	5Ec
	環境経済学	有村 俊秀 教授	J	E	5E7
	公共政策	※ 福島 淑彦 教授	J	E	5E8
	政治経済学	浅古 泰史 准教授	J	E	5Ea

○:研究指導教員名に付されている「○」印の教員は 2019 年度より新規学生募集を行います。

※:研究指導教員名に付されている「※」印の教員は 2019 年度の学生募集は行いません。

△:研究指導教員名に付されている「△」印の教員は 2019 年度 4 月入学のみ募集します。

□:研究指導教員名に付されている「□」印の教員は 2019 年度 9 月入学は募集します。

(注)指導言語:J 指導教員が日本語での研究指導を行う。

指導言語:E 指導教員が英語での研究指導を行う。

## 博士後期課程研究指導内容紹介

### [経済学専攻 経済学コース]

研究指導名	理論経済学研究指導 —進化動学による理論・応用研究—	担当	准教授 荒木 一法
研究テーマ	<p>経済理論は大きな進歩をとげてきましたが、今なお多くの問題を抱えています。例えば、多くの経済モデルには多数の均衡が存在し、理論の説明力を弱めています。また、広く受け入れられている合理的行動モデルの予想とは整合的ではない行動が観察されることも少なくありません。これらの問題に対しては、様々な接近方法による研究が進められていますが、その一つに「進化論」のアイデアに依拠した、進化アプローチがあります。進化アプローチは、大きく①生物としての人間の進化過程をたどることによって人間行動を理解しようとする試みと②人間の学習過程を進化動学で近似し、学習の結果として人間行動を理解しようとする試みがあります。これら二つは互いに排他的なものではありません。人間の行動は、人間としての生来の性質と経験（ないし環境）の双方による影響を受けているので、二つの試みは互いに補完的な役割を持つのです。進化アプローチによって、人間が「あたかも」効用関数を持つかのように行動するのは何故か、効用関数がある特定の「形」をもっているのは何故か、期待効用理論に整合的ではない行動が観察されるのは何故か、といった理論の基礎に関する問題とともに、様々な応用研究が進行中です。</p> <p>この分野での研究を行うにあたっては、大学院レベルのミクロ経済学の十分な理解とともに、他の関係分野、特に、生物学、心理学、人類学、社会学などに対する関心、端的に広い関心と異なる分野や考えに対してもそこから多くを学び取ろうとする態度を持つことが前提条件となります。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導 —マクロ経済の理論と実践—	担当	教授 上田 晃三 D.Phil (Oxford)
研究テーマ	<p><b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b></p> <p>This course concerns macroeconomic theory and practice. Students tackle a number of questions regarding the macro economy, from a positive side (e.g., why has Japan faced with the prolonged recession?) to a normative side (e.g., what should the government do to recover the Japanese economy?). To this end, students study (1) a workhorse macroeconomic model, a DSGE (dynamic stochastic general equilibrium) model, and (2) current economic situations and problems.</p> <p>To take this course, first and foremost, students must have strong motivations and curiosities. In addition, students are required to have sufficient understandings on mathematics and statistics, while knowledge on undergraduate macroeconomics does not matter much.</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導 —不確実性とゲームの理論—	担当	教授 萩沼 隆
研究テーマ	<p>選択理論・ゲーム理論をベースに経済理論の研究を行う。この研究指導では適当なテーマにそって論文等を読み進める予定である。</p> <p>志望する学生は、大学院の基礎レベルのミクロ経済学、ゲーム理論、数学の知識が要求される。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	教授 笠松 学
研究テーマ	<p><b>●2019年度4月入学のみ募集します。</b></p> <p>生産と分配に関する理論、特に交換と消費の理論から派生した分配の理論との比較・対照という観点に関心がある。こうした考え方は、時に、「ポスト・ケインジアン」、「スラッフィアン」、「Long-period analysis」など様々な呼び方をされる考え方と多くの接点があり、したがって、しばしばそれらに言及されることに留意されたい。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導 —帰納的ゲーム理論と認識論理—	担当	教授 金子 守 理学博士（東工大）
研究テーマ	<p>ゲーム理論の基礎としての帰納的ゲーム理論と認識論理学に関して指導を行う。そのためには抽象的な議論から具体的な対象まで勉強・研究の対象にする。具体的な経済の対象にも触れねばならないので、住宅市場に関するシミュレーション分析も行いたい。これは帰納的ゲーム理論や認識論理とは無関係に思えるが、実は、いくつかの技術的側面や認識論理が対象にする世界の反対に位置する「完全競争」を理解するのに必要である。さらに、余裕があれば「社会正義」に関する研究指導も行いたい。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導 —情報とインセンティブの経済学—	担当	教授 河村 耕平 PhD（オックスフォード大学）
研究テーマ	<p>情報やインセンティブに関する学術文献を批判的に検討し、現実と理論を結び合わせ、現実に起こる現象を理解するための独自のモデルを構築させる。また、必要に応じてモデルを検証するための経済実験を行う可能性がある。指導学生にはミクロ経済学・ゲーム理論に関する十分な基礎知識と並んで、現実の社会問題に対する強い関心が要求される。</p>		

研究指導名	Theoretical Economics - Game Theory and Politics -	担当	Associate Prof. KVASOV, Dmitriy Ph.D. (The Pennsylvania State University)
研究テーマ	<p><b>*英語プログラムのみ</b></p> <p>In this course the students are supervised to undertake original work related to Game Theory and its applications; in particular, using game theory for studying phenomena in politics, such as voting rules and electoral competition. It is assumed that the participants have the good command of mathematics, Microeconomic Theory and Game Theory.</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導 一マクロ経済理論一	担当	教授 笹倉 和幸 博士（経済学）（早大）
研究テーマ	<p><b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b></p> <p>マクロ経済理論、特に景気循環理論と経済成長理論を中心とした動学理論を研究する。扱う主なモデルとしては伝統的または新しいケインズモデルと、新古典派的な最適成長モデル、世代重複モデルである。扱う主な数理としては周期解やカオスの存在に関する非線形理論と、変分法や動的計画法などの最適化理論である。今日のマクロ経済理論を研究するため、志望者には以上の他に統計学、計量経済学の知識が要求される。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	准教授 田中 久稔 Ph. D. (ウィスコンシン大マディソン校)
研究テーマ	<p>経済学において有用な数学的・統計学的ツールを新たに開発することを目標とする。受講生には数学や統計学に関する十分な知識に加えて、経済理論に関する幅広い関心を望む。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導 —ミクロ経済学の数学的方法—	担当	教授 永田 良 博士（経済学）早大・京大
研究テーマ	<p><b>●2019年度4月入学のみ募集します。</b></p> <p>博士後期課程では、学生に対し博士論文の作成を目指した専門的指導を行う。志望学生は一般均衡理論あるいはその周辺領域に関する特定のテーマを予め決定していること、そしてその研究のための準備が或る程度なされていることが要求される。</p>		

研究指導名	数理経済学研究指導 —ゲーム理論と実験経済学—	担当	教授 船木 由喜彦 理学博士（東工大）
研究テーマ	<p><b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b></p> <p>ゲーム理論とその応用、および実験経済学の研究を行う。ゲーム理論は情報の経済学、産業組織論、国際経済学、環境経済学、経営学、政治学、社会学、生物学など多くの分野で用いられる重要な理論的分析手法である。相手が存在し相手も合理的な行動をとるということを前提に、個人の合理的な行動を厳密に定義することからはじめ、社会・経済など相互依存関係のある状況における各個人の合理的な意志決定およびその帰結を研究する分野である。</p> <p>本研究指導では、ゲーム理論の理論研究を中心とするが、その応用についても担当教員の守備範囲の中で、研究することができる。</p> <p>また、これらの理論のとおりに実際に人々は行動するのか否か。どのような条件の下では、理論通りの行動が現れるのか。このような問題は、近年、非常に注目されており、その研究分野は実験経済学と呼ばれている。本研究指導では、実験経済学に関する研究を行うことも可能である。</p> <p>ゲーム理論は大別して非協力ゲームの理論（標準形・展開形ゲーム）と協力ゲームの理論（提携形ゲーム）に分けられ、両理論を並行して修得することが必要である。また、実験経済学の研究を行う者も、ゲーム理論の研究は必須である。そのためには数理経済学研究、特論等の受講や大学院生向けセミナーへの積極的な参加が要請される。この研究指導ではこれらの知識をもとに、受講者の興味に従い、関連する論文の講読、議論を行う。</p> <p>なお、ゲーム理論、ミクロ経済学の基礎的な知識、および、解析学、位相数学の初等的な知識を必要とする。</p>		

研究指導名	Experimental Economics	担当	Associate Prof. VESZTEG, Robert Ferenc Ph.D.(Universitat Autonoma de Barcelona)
研究テーマ	<p><b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b></p> <p>Seminar A (Spring semester) focuses on methodological issues rather than experimental results.</p> <p>During the first half of the semester, we are going to discuss the basic principles of designing and carrying out economics experiments. This part relies on Friedman and Cassar (2004) and includes practical topics related to data collection (experimental design, writing instructions, programming in zTree, running the experiment) and data analysis (review of the most popular statistical techniques and the use of statistical software). The second half of the semester is dedicated to critical reflection on the methodology of Experimental Economics. We are going to read selected chapters from Bardsley et al. (2009) and discuss the internal and external validity of experimental results, the importance of monetary incentives in experimental economics, and how to test economic theory in the experimental laboratory.</p> <p>Seminar B (Fall semester) focuses on experimental results rather than methodological issues.</p> <p>Students are required to register with some specific research questions in mind and are going to work in groups (or alone if preferred). The first half of the semester is dedicated to the revision of the theoretical and experimental literature related to the chosen research questions. The second half of the semester is dedicated to the design of experiments that are suitable to deliver an answer to the chosen research questions.</p>		

研究指導名	計量経済学研究指導	担当	教授 近藤 康之 博士 (社会経済) (筑波大)
研究テーマ	本研究指導は、応用ミクロ計量経済分析（産業連関分析を含む）を主題とする。関連する計量経済理論的研究も扱う。必要に応じて、計量経済学方法論についての指導も行う。		

研究指導名	ミクロ計量経済学	担当	准教授 星野匡郎 学術博士 (東京工業大学)
研究テーマ	この研究指導は、博士号の取得を目標として、ミクロ計量経済学の理論と実証分析に関する研究に取り組む学生を対象とする。研究は国際学術誌に採択される水準を基準とする。すべての応募者に共通し、大学院レベルの計量経済学の知識を前提とする。		

研究指導名	統計学研究指導	担当	教授 西郷 浩
研究テーマ	<p><b>●2019年度4月入学のみ募集します。</b>            本研究の目的は、経済データの作成・分析に関して、統計理論的に研究することである。具体的には、標本調査法、リサンプリング法などの統計データの収集・集計に関する手法や調査データに基づく理論モデルの推定などが研究の対象となる。典型的なテーマとしては、有限母集団の推定における統計モデルの使用、外れ値処理、欠測処理があげられる。特定の実証研究のテーマがあり、統計分析を副次的に利用する研究については、他の研究指導を選択すること。</p>		

研究指導名	経済統計研究指導	担当	教授 野口 和也
研究テーマ	<p><b>●2019年度4月入学のみ募集します。</b>            本研究では、各自の研究テーマに必要な統計的手法と計算方法について研究する。</p>		

研究指導名	数量経済政策研究指導 —家計行動の実証分析—	担当	教授 上田 貴子 Ph. D. (ウィスコンシン大マディソン校)
研究テーマ	ミクロ・データ及びパネル・データを対象とした、主として家計行動における実証分析に関する研究指導を行う（時系列データは扱わない）。当該研究分野の関連研究及び大学院中級レベル以上の計量経済学の知識を有し、実証研究の英語論文を読みこなせ、分析ソフトウェアを使いこなせることが望ましい。真剣に研究職を目指し、積極的に研究会や学会参加を行い、英語論文を執筆し国際的な査読付き専門誌掲載を目指す意欲を求める。		

研究指導名	産業エコロジー研究指導	担当	教授 中村 慎一郎 Dr. rer. pol (ボン大)
研究テーマ	経済と環境の相互依存関係を探求し、持続可能経済の達成を計るのが産業エコロジー学(Industrial Ecology, IE)の目的である。このために重要な課題が経済活動の及ぼす環境負荷を定量的に評価することである。そこでは、経済と環境の関連を現実的かつ操作可能な形で表現する数理モデルが中心的な役割を果たす。この種のモデルとして近年注目されているのが中村等が開発した廃棄物産業連関モデル(WIO)である。本指導では、履修者の研究関心を考慮した上で IE への応用を念頭に置いた WIO の理論と応用、及びその周辺領域を扱う。指導の目的は IE 分野における国際主要学術雑誌水準の論文を作成できることである。		

研究指導名	金融工学研究指導	担当	准教授 玉置 健一郎 博士（理学）（早大）
研究テーマ	本研究指導では、経済・金融データの分析を行うための時系列分析における理論の構築と、統計ソフトウェアによるデータ分析やシミュレーションを行い、その成果を学術論文にすることを目標とする。本研究では、数学・統計学の知識が必要である。また、学会や研究集会に積極的に参加し、研究成果の発表を行うことが望ましい。		

研究指導名	ファイナンス研究指導	担当	教授 山本 竜市 Ph. D. (ブランダイス大)
研究テーマ	<p><b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b></p> <p>ファイナンスとは資産運用・取引、リスクマネージメント、投資の意思決定に関する研究全般を示します。研究テーマは学生の希望に応じて設定されますが、本研究指導ではファイナンス分野（特にマーケットマイクロストラクチャーや行動ファイナンス）の理論・実証分析を研究課題とします。ファイナンス分野の学術論文のサーベイを通じ研究テーマの探し方、論文の書き方、研究発表方法など指導します。</p>		

研究指導名	応用マクロ経済分析	担当	准教授 片山宗親 Ph. D. (カルフォルニア大学サンディエゴ校)
研究テーマ	本研究指導では、マクロ経済理論と実証分析のインタラクションに焦点をあてる。マクロ経済学、とりわけビジネスサイクルに関して新しい知見を得るために、履修する学生は、理論モデルをデータに当てはめる構造推定的なアプローチか、ファクトファインディングのための誘導系アプローチをとることが出来る。前者の場合は、動学確率的一般均衡（DSGE）モデルをきちんと理解し、数値計算に関して基本的な理解を持っていることが期待される。また、後者の場合、学生は実証分析（とりわけ時系列データ）に慣れており、統計解析用のプログラミング言語に明るいことが望ましい。これらは必須である。また、マクロ経済学における最新の動向を自ら積極的に学ぶ姿勢が要求される。		

研究指導名	応用マクロ計量経済学研究指導	担当	Prof. BAAK, Saang Joon Ph.D in Economics(Univ. of Wisconsin-Madison)
研究テーマ	The purpose of this class is to learn how to analyze economic data using advanced time-series econometrics to explore various economic issues. The current research topics of the instructor are the followings: (1) Expectation formation functions and market dynamics; (2) Measuring misalignment in exchange rates; (3) Impact of exchange rates on trade and investment. In addition, the instructor often analyzes the data of East Asian economies. Applicants for this class should have a strong background in quantitative analysis, and should be able to use at least one of the following soft-wares: Matlab, Gauss, Rats, Eviews, Stata, JMulti, R. Both English and Japanese can be used for individual instructions depending on the needs of students. However, a thesis should be written in English.		

研究指導名	日本経済史研究指導	担当	教授 川口 浩
研究テーマ	本研究指導では、近世～近代における日本経済の実態、並びに日本経済の担い手たちの経済思想の歴史的分析を目指している。受講者は日本経済史・経済思想史に属する諸問題の中から自己の研究テーマを選択することができる。受講に際しては、当該領域に関する高度な専門知識を習得していることが必須である。また、史料の正確な解読を前提とする実証性重視の冷静な研究態度が要求される。		

研究指導名	日本経済史研究指導	担当	教授 鎮目 雅人
			博士（経済学）（神戸大）
研究テーマ	<p><b>●2019年度4月入学のみ募集します。</b></p> <p>本コースでは、近世以降の日本経済史に関するトピックについて、修士レベルでの研究成果をさらに発展・拡張させるかたちで、受講者自らが主体的に実証研究を進める。学会等に参加しつつ、該当する研究分野における先行研究と現在の学問上のフロンティアを見極めるとともに、実証分析の方法論を踏まえ、日本語ないし英語の学術誌への掲載を目指して論文の執筆を行う。</p>		

研究指導名	アジア経済史研究指導 －上海史を通した民国期中国の社会経済史	担当	教授 本野 英一
			D. Phil. (オックスフォード大)
研究テーマ	20世紀前半の上海の社会経済史を通して、先進資本主義諸国の制度価値観が中国に及ぼした影響を考察する。特に、上海総商會議事録、あるいは『ノース・チャイナ・ヘラルド』、『申報』に代表されるメディアの記事、イギリス、アメリカ、日本の領事館が作成していた外交文書を分析することを通じて史料の使い方を学ぶ。		

研究指導名	農業経済学研究指導	担当	准教授 下川 哲
			Ph. D. in Applied Economics (コーネル大学)
研究テーマ	本研究指導では、世界中の食糧、健康、貧困に関する問題について、ミクロ経済学の枠組みを用いて実証的に検討する。農業経済学もしくは開発経済学の専門書を使い、学生による輪読を中心に行う。学術論文の精読や研究発表も必要に応じて行う。修士レベルのミクロ経済学と計量経済学の知識があることを前提としている。また、主な使用言語は英語なので、学術論文を読み、議論して、執筆できる英語力が必須。		

研究指導名	金融論研究指導	担当	教授 小倉 義明
			Ph.D. in Economics, Columbia University
研究テーマ	金融契約あるいは金融仲介に関する理論・実証研究を行う院生を対象に博士論文作成の指導を行う。国際的査読付専門誌に投稿するに足る英語論文を概ね年に1本は作成することが要求される。少なくとも大学院修士レベルの金融・ファイナンス、情報の経済学、および計量経済学をマスターしていることが必須である。		

研究指導名	金融論研究指導	担当	准教授 戸村 肇
			Ph.D. (ロンドン大学)
研究テーマ	<p>金融契約理論に依拠したミクロ理論モデルの構築、またそれらの応用によるマクロ理論モデル分析について指導を行う。このトピックの例としては、Tirole (2006) を参照すること。ミクロ経済学・マクロ経済学について大学院必修科目程度の知識を前提とする。特に情報の経済学・ゲーム理論の基礎について Mas-Colell, Whinston, and Green (1995) の Ch. 7-Ch. 14 程度の内容をきちんと習得している必要がある。また、線形代数・ダイナミックプログラミングの基礎的な知識をもっていることが望ましい。線形代数・ダイナミックプログラミングについての参考文献は Ljungqvist and Sargent (2012)、ダイナミックプログラミングについての参考文献は Stokey and Lucas (1989) を参照。</p> <p>引用文献：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Andreu Mas-Colell, Michael D. Whinston, and Jerry R. Green, 1995, Microeconomic Theory, Oxford Univ Press.</li> <li>- Ljungqvist, Lars, and Thomas J. Sargent, 2012, Recursive Macroeconomic Theory, third edition, MIT Press.</li> <li>- Stokey, Nancy L., and Robert E. Lucas, Jr., 1989, Recursive Methods in Economic Dynamics, Harvard University Press.</li> <li>- Tirole, Jean, 2006, The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press</li> </ul>		

研究指導名	政治経済学方法論研究指導	担当	教授 清水 和巳
			Doctrat de Théorie Economique Université de Grenoble II
研究テーマ	現代経済学は、経済分析の出発点としておくべき「経済人 Homo Economicus」の見直しをひとつの課題としてきた。具体的には、経済主体がもつといわれる「合理性」の内容の再吟味や、他主体との関係の中での選好形成の分析などが、様々なアプローチによって進められている。本研究では、このような「経済人」の再構築の流れに依拠しつつ、2つのプロジェクトを進めて行きたい。ひとつは、エージェントの規範的な意識がどのように政治経済行動に影響を与えるのかを主として実験的アプローチによって分析する実証的研究である。もうひとつは、個人の規範意識を社会規範の機軸とみなす妥当性を吟味する規範的研究である。		

研究指導名	応用マクロ・ファイナンス研究指導	担当	准教授 小枝 淳子
			博士（経済学）（カリフォルニア大）
研究テーマ	In this seminar, participants will empirically examine their questions of interest in macroeconomics and finance, and are expected to make contributions to the existing academic literature. The participants will (i) obtain early feedback from the supervisor on their preliminary thesis work and (ii) read selected papers to build academic background knowledge. The master's level of knowledge in (i) macroeconomics or finance or both and (ii) econometrics is required.		

研究指導名	社会政策研究指導	担当	教授 白木 三秀
			博士（経済学）（早大）
研究テーマ	社会政策という広い分野を研究するにあたって様々な対象ならびにアプローチがあり得るが、私の主たる研究分野は、現代企業の人的資源管理の実態と政策の分析である。具体的には、多国籍企業の人的資源管理制度と政策の国際比較を行っている。主たるフィールドを東南アジアにおいて、「足で稼ぐ研究スタイル」をモットーにしている。現実の労働市場問題、労働政策、企業の人的資源管理、あるいはアジアに強い関心を持つ博士論文作成者の参加を歓迎する。		

研究指導名	労働経済学研究指導	担当	大湾秀雄
			Ph. D. (スタンフォード大学)
研究テーマ	労働経済学、特に内部労働市場の機能の解明に焦点を当てる人事経済学、あるいは最適な組織設計を研究する組織経済学の理論および実証研究のテーマを扱う。人的資本、人材配置、インセンティブ契約、トーナメント、離職、採用、賃金、チーム生産、管理職の生産性、適応とコーディネーション、男女格差、高齢者雇用、組織内イノベーションなどのテーマにおける先行研究を学びながら、研究課題に取り組んでもらう。データサイエンティストの育成にも力を入れており、人事データなど企業内データを用いた実証分析に関心のある学生に対しては、データ取得や企業と連携した共同研究参加への機会を提供する。		

研究指導名	労働経済学研究指導	担当	教授 村上 由紀子
			博士 (経済学) (早大)
研究テーマ	<p>本研究指導では、経済の中でも「人材」や「労働」にかかる研究課題を幅広く扱う。人材の育成、労働者の効用の増加、労働問題の解決、イノベーションや経済発展に向けた人的資源の活用等について、理論的・実証的に研究し、かつ、関連する政策や制度の構築についても考察する。研究課題の例として以下のものが挙げられるが、上記の包括的な研究テーマにマッチする新たな視点の研究も歓迎する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・人材育成・キャリアディベロップメント（学校教育、企業内教育訓練、公共職業訓練を含む）</li> <li>・労働移動（国際移動、地域間移動、転職、昇進、配置転換など）</li> <li>・労働市場の情報、マッチング</li> <li>・賃金・所得分配</li> <li>・時間資源の配分</li> <li>・人材の面からのイノベーション研究 など</li> </ul> <p>学生は、独創的な研究課題を設定し、学界で蓄積されている研究成果を吸収し、確かな研究方法を用いて研究を発展させ、世界に発信することのできる博士論文を完成することを目指す。</p>		

研究指導名	公共経済学研究指導	担当	教授 須賀 晃一
			経済学博士 (一橋大)
研究テーマ	<p>この講義では、博士課程終了時での博士号請求論文作成を目標として、公共経済学の中から選んだ各人の研究テーマに関する文献を精読すると同時に、研究の進め方、論文の書き方について講義する。博士論文はいくつかの論文を中心として構成されるので、年に1、2本の論文を書くことが義務づけられると考えてほしい。また、将来の研究の広がりを考えれば公共経済学全般についての知識が不可欠であろうから、いくつかの基本的な研究書についてレポートを作成してもらう。</p> <p>参考文献 : D. Austen-Smith and J. S. Banks, <i>Positive Political Theory I, II</i>, Michigan UP, 1999, 2005.  K. J. Arrow, A. Sen and K. Suzumura eds., <i>Handbook of Social Choice and Welfare</i>, Vol. 1 and 2, North-Holland, 2002, 2011.  H. J. Moulin, <i>Fair Division and Collective Welfare</i>, MIT Press, 2003.  A. Sen, <i>The Idea of Justice</i>, Belknap Press of Harvard University Press, 2009.</p>		

研究指導名	公共経済学研究指導	担当	准教授 安達 剛
			経済学博士 (早稲田大学)
研究テーマ	<p>メカニズムデザイン、社会的選択理論、ゲーム理論の研究を指導する。研究分野の専門知識だけでなく、評価される研究とは何か、自身の研究の貢献部分をいかにして作るか、という点についても指導を行い、査読付き雑誌に採択されるレベルの研究成果を出す能力を身に付けることを目指す。</p>		

研究指導名	環境経済学研究指導	担当	教授 有村 俊秀
			Ph. D (ミネソタ大学)
研究テーマ	<p>応用ミクロ経済学としての環境経済学の研究を、実証研究を中心としたアプローチで行う。そのため、大学院レベルのミクロ経済学や計量経済学の知識を前提とする。研究指導では、これらの知識をもとに、関連する論文等の輪読を行うとともに、実際にミクロデータを用いた分析を行う。そのため、ミクロ計量の手法の習得やコンピュータースキルが必要となる。英文で書かれた論文を読むので、そのための英語力も必要となる。</p>		

研究指導名	公共政策研究指導	担当	教授 福島 淑彦
			Ph. D. in Economics (Stockholm University)
研究テーマ	<p><b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b></p> <p>本研究指導は、広い意味での「労働経済学」を基礎として、「社会」の厚生水準を高めるための政策や制度について、経済学視点で理論的或いは実証的アプローチで研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「公共政策」であるが、研究内容は主に「雇用」、「失業」、「人的資本」、「賃金」、「教育」、「訓練」、「労働市場における差別」、「転職」、「家庭内労働」「労働組合」、「福祉」といった「人が働くこと」に関する政策や制度を中心に、博士論文作成のための研究をサポートする。教材には、英文論文や英文テキストを用いるので、それらを読みこなすための「経済学」「数学」の基礎知識に加えて、英語力が必要となる。「人が働くこと」に関して強い関心を持ち、これまで明らかにされていなかった「真理」を明らかにしたいという強い信念と意思のある方を歓迎する。</p>		

研究指導名	医療経済学研究指導	担当	教授 野口 晴子
			PhD (ニューヨーク市立大学)
研究テーマ	<p>本研究指導の目的は、医療経済学分野でのさまざまな政策課題に対する実証研究の力を身につけることがあります。昨今、我が国においても、診療報酬明細書（レセプト）データをはじめとして、医療や介護に対するミクロデータの整備が急速に進みつつありますが、ここでは、こうしたデータを現在の医療政策の諸課題にどのように活用することができるのか、また、活用するための道具としてどういった計量経済学的手法が有効か、といったことについて、実践的に研究指導を行っていきます。研究指導では、Wooldridge JM (2010)"Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data (2<sup>nd</sup> Ed)" MIT Press を教科書として、医療経済分野における過去の実証研究（邦文・英文）を輪読し、現代の日本における医療政策に資する政策研究を模索していきます。</p>		

研究指導名	政治経済学研究指導	担当	准教授 浅古 泰史
			Ph. D. (ウィスコンシン大学マディソン校)
研究テーマ	<p>本研究指導は、「公共選択論」「政治経済学」あるいは「数理政治学」と呼ばれている分野において博士論文を書くことを目的とする学生を対象とする。従来の経済学で行われることが少なかった政府の政策意思決定過程に関する分析が主となる。また、国際関係などの数理分析を行う学生も対象とする。中心となる分析手法はゲーム理論となるため、実証分析・ケーススタディ・歴史分析・マクロ経済理論などを主な手法として用いたい学生は対象としない。私の研究テーマは、以下の本で紹介されているものに近い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Scott Gehlbach, Formal Models of Domestic Politics, Cambridge University Press.</li> <li>● 浅古泰史『政治の数理分析入門』木鐸社</li> </ul> <p>研究指導は、各学生の研究・サーベイの進捗状況などの報告が中心となる。大学院レベルのゲーム理論、マクロ経済学の知識を前提とする。主な使用言語（博士論文も含む）は英語とする。</p>		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 金子 昭彦
			博士（経済学）（阪大）
研究テーマ	<p>この研究指導では、博士号取得のために必要な専門論文作成を指導する。トピックは、動学理論に基づいた国際マクロ経済理論、および貨幣経済理論である。指導は国際学術雑誌への投稿を前提とするため、学生は1) 十分な内容の修士論文作成経験があること、2) 自ら研究テーマを決めていることが必要とされる。</p>		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 内藤 巧
			博士（経済学）（阪大）

  

研究テーマ	志望者は、修士論文が国際査読誌（大体 Japanese Economic Review 以上のレベル）に出版可能と担当教員が納得できるときのみ、この研究指導（国際貿易理論）を受けることが許される。学生は最初の論文を雑誌に投稿し、また博士論文を構成する後数本の論文を書くように訓練される。この研究指導は国際貿易の実証分析、国・産業のケーススタディー、貿易実務、国際金融・国際マクロ経済学等を研究する学生のためのものではない。志望者は< <a href="http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html">http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html</a> >を読むことが必要である。		
-------	--	--	--

研究指導名	国際経済論研究指導 —国際マクロ経済学—	担当	准教授 濱野 正樹
			経済学博士（レンヌ第一大学）

  

研究テーマ	開放国際経済学分野での理論・実証研究を主に行う。開放系の動学的一般均衡モデルに依拠し、現実の政策課題を検討する。計量経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、加えて英語の知識は必須である。自主独立の気概を持った学生を歓迎する。参考文献は Martin Uribe and Stephanie Schmitt-Grohe: Open Economy Macroeconomics: Princeton University Press, 2017. Maurice Obstfeld and Kenneth Rogoff: Foundations of International Macroeconomics		
-------	--	--	--

研究指導名	開発経済論研究指導	担当	教授 深川 由起子

  

研究テーマ	いわゆる外向き工業化が直面する様々な調整、具体的には貿易自由化、産業高度化、外資の受け入れ、金融自由化、負債圧縮、所得格差と社会的安定性維持、労働市場の柔軟化といった外的ショックへの調整においてどういう対応がなされてきたのか、東アジアを中心に制度刷新、制度間の関係変化、制度の調和・均衡など制度的な視点から接近する。まずは世銀などを中心に展開されている持続的経済発展の制度を英文、邦文論文などによって概観する。次いでさまざまな調整経験を実証例として取り上げ、次いで制度の変化が政策目標の達成にどう寄与したか、政策のシークエンス、政策実施のガバナンスなどを論じる。授業は毎回、主要論文を輪読する形式で進めるが、後半は特に個々の関心に応じて特定テーマと国を設定し、実証結果を提示してこれを討論することが求められる。受講者は英語の他にできれば現地の統計、HPを当たれる程度の中国語その他東アジアの言語ができればなお良く、日本の経験に対する関心（現代日本経済史、日本経済論など）を併せて持つことが期待される。		
-------	--	--	--

研究指導名	アジア経済論研究指導 —開発経済学・国際経済学・日本経済論・応用ミクロ計量経済学—	担当	教授 戸堂 康之
			Ph. D.（スタンフォード大）

  

研究テーマ	<b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b> 国際経済学・開発経済学・日本経済論に関する実証研究の立案、現場体験、データ収集、分析、論文作成、口頭発表を通じて、グローバル・リーダーおよび世界水準の研究者の育成を目指す。ゼミは英語で行い、学生の研究発表を中心に、論文の講読も必要に応じて行う。担当教員の研究テーマは、社会・経済ネットワークが経済成長・発展に及ぼす影響、国際貿易・海外直接投資が企業の生産性・雇用に及ぼす影響、政府開発援助のインパクト評価などに関する実証研究であり、学生の研究テーマはそれに関連したテーマであることが求められる。場合によっては、担当教員の研究プロジェクトのメンバーとして研究を行う。修士レベルの計量経済学の知識、計量経済学・統計学のソフトウェアの知識と経験、および読み書き話すことのできる英語力が必要である。希望者は担当教員のウェブサイト ( <a href="http://www.f.waseda.jp/yastodo">http://www.f.waseda.jp/yastodo</a> ) を熟読し、いくつかの論文を読んでおくこと。		
-------	--	--	--

研究指導名	国際政治経済学(経済)研究指導	担当	教授 小西 秀樹
			経済学博士 (東大)
研究テーマ	公共経済学、公共選択論を基礎として、政策決定のメカニズムとその帰結、あるべき制度の構築について、理論的あるいは実証的に研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「国際政治経済学」だが、研究内容は「政治の経済分析」であり、国際政治や国際経済とは基本的に無関係なので注意せよ。(研究テーマの例としては、たとえば小西秀樹「公共選択の経済分析」(2009年、東大出版会)を参照せよ) 教材には最先端の英文論文や大学院レベルの英文テキストを用いるので、それらを読みこなすのに最低限必要なレベルの 経済学、数学についての知識、および英語力を持っていることが必要である。経済学については、①ミクロ経済理論(MasColell 他あるいはVarian の大学院向け教科書のレベル)、②非協力ゲーム理論 (MasColell 他あるいはGibbons の大学院向け教科書のレベル) を、習得していなければならない。		

研究指導名	空間経済学研究指導	担当	准教授 齊藤有希子
			理学博士 (東京大学)
研究テーマ	地理空間に関わる経済現象、特に企業間ネットワークに関わる研究テーマの指導をおこなう。政策提言など、社会とのつながりを意識し、実証研究をメインに行うが、理論研究の理解も不可欠である。受講者には統計学・計量経済学・ミクロ経済学に関する十分な知識が必要である。また、英語の実証研究論文をよみこなす力に加え、研究成果の社会へ発信する能力、英語の学術論文を執筆する力、国際的査読付専門誌の掲載を目指す意欲を求める。		

## [経済学専攻 国際政治経済学コース]

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 金子 昭彦
			博士 (経済学) (阪大)
研究テーマ	この研究指導では、博士号取得のために必要な専門論文作成を指導する。トピックは、動学理論に基づいた国際マクロ経済理論、および貨幣経済理論である。指導は国際学術雑誌への投稿を前提とするため、学生は1)十分な内容の修士論文作成経験があること、2)自ら研究テーマを決めていることが必要とされる。		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 内藤 巧
			博士 (経済学) (阪大)
研究テーマ	志望者は、修士論文が国際査読誌（大体 Japanese Economic Review 以上のレベル）に出版可能と担当教員が納得できるときのみ、この研究指導（国際貿易理論）を受けることが許される。学生は最初の論文を雑誌に投稿し、また博士論文を構成する後数本の論文を書くように訓練される。この研究指導は国際貿易の実証分析、国・産業のケーススタディー、貿易実務、国際金融・国際マクロ経済学等を研究する学生のためのものではない。志望者は< <a href="http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html">http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html</a> >を読むことが必要である。		

研究指導名	国際経済論研究指導 —国際マクロ経済学—	担当	准教授 濱野 正樹
			経済学博士 (レンヌ第一大学)
研究テーマ	開放国際経済学分野での理論・実証研究を主に行う。開放系の動学的一般均衡モデルに依拠し、現実の政策課題を検討する。計量経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、加えて英語の知識は必須である。自主独立の気概を持った学生を歓迎する。参考文献は Martin Uribe and Stephanie Schmitt-Grohe: Open Economy Macroeconomics: Princeton University Press, 2017. Maurice Obstfeld and Kenneth Rogoff: Foundations of International Macroeconomics		

研究指導名	開発経済論研究指導	担当	教授 深川 由起子
研究テーマ	いわゆる外向き工業化が直面する様々な調整、具体的には貿易自由化、産業高度化、外資の受け入れ、金融自由化、負債圧縮、所得格差と社会的安定性維持、労働市場の柔軟化といった外的ショックへの調整においてどういう対応がなされてきたのか、東アジアを中心に制度刷新、制度間の関係変化、制度の調和・均衡など制度的な視点から接近する。まずは世銀などを中心に展開されている持続的経済発展の制度を英文、邦文論文などによって概観する。次いでさまざまな調整経験を実証例として取り上げ、次いで制度の変化が政策目標の達成にどう寄与したか、政策のシークエンス、政策実施のガバナンスなどを論じる。授業は毎回、主要論文を輪読する形式で進めるが、後半は特に個々の関心に応じて特定テーマと国を設定し、実証結果を提示してこれを討論することが求められる。受講者は英語の他にできれば現地の統計、HPを当たれる程度の中国語その他東アジアの言語ができればなお良く、日本の経験に対する関心（現代日本経済史、日本経済論など）を併せて持つことが期待される。		

研究指導名	アジア経済論研究指導 —開発経済学・国際経済学・日本経済論・ 応用ミクロ計量経済学—	担当	教授 戸堂 康之 Ph. D. (スタンフォード大)
研究テーマ	<b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b> 国際経済学・開発経済学・日本経済論に関する実証研究の立案、現場体験、データ収集、分析、論文作成、口頭発表を通じて、グローバル・リーダーおよび世界水準の研究者の育成を目指す。ゼミは英語で行い、学生の研究発表を中心に、論文の講読も必要に応じて行う。担当教員の研究テーマは、社会・経済ネットワークが経済成長・発展に及ぼす影響、国際貿易・海外直接投資が企業の生産性・雇用に及ぼす影響、政府開発援助のインパクト評価などに関する実証研究であり、学生の研究テーマはそれに関連したテーマであることが求められる。場合によっては、担当教員の研究プロジェクトのメンバーとして研究を行う。修士レベルの計量経済学の知識、計量経済学・統計学のソフトウェアの知識と経験、および読み書き話すことのできる英語力が必要である。希望者は担当教員のウェブサイト ( <a href="http://www.f.waseda.jp/yastodo">http://www.f.waseda.jp/yastodo</a> ) を熟読し、いくつかの論文を読んでおくこと。		

研究指導名	国際政治経済学(経済)研究指導	担当	教授 小西 秀樹 経済学博士 (東大)
研究テーマ	公共経済学、公共選択論を基礎として、政策決定のメカニズムとその帰結、あるべき制度の構築について、理論的あるいは実証的に研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「国際政治経済学」だが、研究内容は「政治の経済分析」であり、国際政治や国際経済とは基本的に無関係なので注意せよ。(研究テーマの例としては、たとえば小西秀樹「公共選択の経済分析」(2009年、東大出版会)を参照せよ) 教材には最先端の英文論文や大学院レベルの英文テキストを用いるので、それらを読みこなすのに最低限必要なレベルの 経済学、数学についての知識、および英語力を持っていることが必要である。経済学については、①ミクロ経済理論(MasColell 他あるいはVarian の大学院向け教科書のレベル)、②非協力ゲーム理論 (MasColell 他あるいはGibbons の大学院向け教科書のレベル) を、習得していかなければならない。		

研究指導名	空間経済学研究指導	担当	准教授 齊藤有希子
			理学博士（東京大学）
研究テーマ	地理空間に関わる経済現象、特に企業間ネットワークに関わる研究テーマの指導をおこなう。政策提言など、社会とのつながりを意識し、実証研究をメインに行うが、理論研究の理解も不可欠である。受講者には統計学・計量経済学・ミクロ経済学に関する十分な知識が必要である。また、英語の実証研究論文をよみこなす力に加え、研究成果の社会へ発信する能力、英語の学術論文を執筆する力、国際的査読付専門誌の掲載を目指す意欲を求める。		

研究指導名	数量経済政策研究指導 —家計行動の実証分析—	担当	教授 上田 貴子
			Ph. D. (ウィスコンシン大マディソン校)
研究テーマ	ミクロ・データ及びパネル・データを対象とした、主として家計行動における実証分析に関する研究指導を行う（時系列データは扱わない）。 実証分析を行うための、大学院中級レベル以上の計量経済学の知識と、実証研究の英語論文を読みこなし、統計言語を使用したシミュレーションや推定のためのプログラミングが行えるコンピュータースキルを習得していることが望ましい。		

研究指導名	農業経済学研究指導	担当	准教授 下川 哲
			Ph. D. in Applied Economics(コーネル大学)
研究テーマ	本研究指導では、世界中の食糧、健康、貧困に関する問題について、ミクロ経済学の枠組みを用いて実証的に検討する。農業経済学もしくは開発経済学の専門書を使い、学生による輪読を中心に行う。学術論文の精読や研究発表も必要に応じて行う。修士レベルのミクロ経済学と計量経済学の知識があることを前提としている。また、主な使用言語は英語なので、学術論文を読み、議論して、執筆できる英語力が必須。		

研究指導名	政治経済学方法論研究指導	担当	教授 清水 和巳
			Doctrat de Théorie Economique Université de Grenoble II
研究テーマ	現代経済学は、経済分析の出発点としておくべき「経済人 Homo Economicus」の見直しをひとつの課題としてきた。具体的には、経済主体がもつといわれる「合理性」の内容の再吟味や、他主体との関係の中での選好形成の分析などが、様々なアプローチによって進められている。本研究では、このような「経済人」の再構築の流れに依拠しつつ、2つのプロジェクトを進めて行きたい。ひとつは、エージェントの規範的な意識がどのように政治経済行動に影響を与えるのかを主として実験的アプローチによって分析する実証的研究である。もうひとつは、個人の規範意識を社会規範の機軸とみなす妥当性を吟味する規範的研究である。		

研究指導名	公共経済学研究指導	担当	教授 須賀 晃一
			経済学博士 (一橋大)
研究テーマ	<p>この講義では、博士課程終了時での博士号請求論文作成を目標として、公共経済学の中から選んだ各人の研究テーマに関する文献を精読すると同時に、研究の進め方、論文の書き方について講義する。博士論文はいくつかの論文を中心として構成されるので、年に1、2本の論文を書くことが義務づけられると考えてほしい。また、将来の研究の広がりを考えれば公共経済学全般についての知識が不可欠であろうから、いくつかの基本的な研究書についてレポートを作成してもらう。</p> <p>参考文献 : D. Austen-Smith and J. S. Banks, <i>Positive Political Theory I, II</i>, Michigan UP, 1999, 2005.</p> <p>K. J. Arrow, A. Sen and K. Suzumura eds., <i>Handbook of Social Choice and Welfare</i>, Vol. 1 and 2, North-Holland, 2002, 2011.</p> <p>H. J. Moulin, <i>Fair Division and Collective Welfare</i>, MIT Press, 2003.</p> <p>A. Sen, <i>The Idea of Justice</i>, Belknap Press of Harvard University Press, 2009.</p>		

研究指導名	公共経済学研究指導	担当	准教授 安達 剛
			経済学博士 (早稲田大学)
研究テーマ	メカニズムデザイン、社会的選択理論、ゲーム理論の研究を指導する。研究分野の専門知識だけでなく、評価される研究とは何か、自身の研究の貢献部分をいかにして作るか、という点についても指導を行い、査読付き雑誌に採択されるレベルの研究成果を出す能力を身に付けることを目指す。		

研究指導名	環境経済学研究指導	担当	教授 有村 俊秀
			Ph. D. (ミネソタ大学)
研究テーマ	応用ミクロ経済学としての環境経済学の研究を、実証研究を中心としたアプローチで行う。そのため、大学院初級レベルのミクロ経済学や、計量経済学の知識を前提とする。研究指導では、これらの知識をもとに、関連する論文（英文含む）等の輪読を行う。特に、ミクロデータを用いた計量の手法の習得が必要となる。英文で書かれた論文を読むので、そのための英語力も必要となる。		

研究指導名	公共政策研究指導	担当	教授 福島 淑彦
			Ph. D. (Stockholm University)
研究テーマ	<p><b>●2019年度は、学生の募集は行なわない。</b></p> <p>本研究指導は、広い意味での「労働経済学」を基礎として、「社会」の厚生水準を高めるための政策や制度について、経済学視点で理論的或いは実証的アプローチで研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「公共政策」であるが、研究内容は主に「雇用」、「失業」、「人的資本」、「賃金」、「教育」、「訓練」、「労働市場における差別」、「転職」、「家庭内労働」「労働組合」、「福祉」といった「人が働くこと」に関する政策や制度を中心に、修士論文作成のための研究をサポートする。教材には、英文論文や英文テキストを用いるので、それらを読みこなすための「経済学」「数学」の基礎知識に加えて、英語力が必要となる。</p>		

研究指導名	政治経済学研究指導	担当	准教授 浅古 泰史 Ph. D. (ウィスコンシン大学マディソン校)
研究テーマ	<p>本研究指導は、「公共選択論」「政治経済学」あるいは「数理政治学」と呼ばれている分野において博士論文を書くことを目的とする学生を対象とする。従来の経済学で行われることが少なかった政府の政策意思決定過程に関する分析が主となる。また、国際関係などの数理分析を行う学生も対象とする。中心となる分析手法はゲーム理論となるため、実証分析・ケーススタディ・歴史分析・マクロ経済理論などを主な手法として用いたい学生は対象としない。私の研究テーマは、以下の本で紹介されているものに近い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Scott Gehlbach, <i>Formal Models if Domestic Politics</i>, Cambridge University Press.</li> <li>● 浅古泰史『政治の数理分析入門』木鐸社</li> </ul> <p>研究指導は、各学生の研究・サーベイの進捗状況などの報告が中心となる。大学院レベルのゲーム理論、マクロ経済学の知識を前提とする。主な使用言語（博士論文も含む）は英語とする。</p>		